

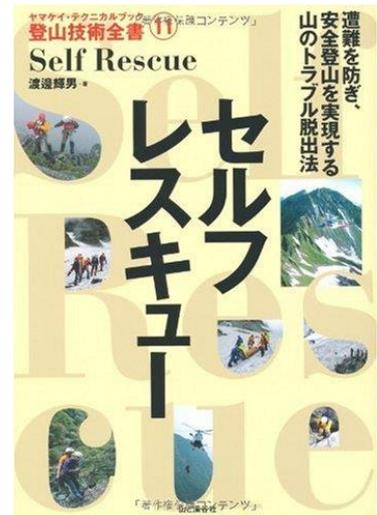
渡邊輝男著 『セルフレスキュー』

セルフレスキューに関する邦文の技術書は余り刊行されていない。あっても岩場や雪山に特化したレスキューテクニックである。とかく「レスキュー」などと言えば、高度な専門的特殊技術で一般登山者には縁が無いものと思われがちであるが、山岳遭難や事故はハイキングでも一般の登山でも十分に起こり得る。山での事故や病気が起こった場合に、自分達の手で負傷者をヘリや病院などの医療専門機関に引き渡すまでの応急処置がセルフレスキューであり、適切な処置ができるかどうかで命を失ったり、後遺症で苦しむことになったりする分かれ道となる。

この本は、岩場や雪山でのセルフレスキューに加えて、一般登山でのセルフレスキューについても懇切丁寧に解説されているので、初心者にも分かりやすい。また、レスキューテクニックだけでなく、山岳事故の要因・バックグラウンド、救助要請の方法、救急法の基礎知識、それに遭難者の家族や仲間との対応・事故の後始末といったアフターフォローについても記述されている。写真や分かり易い図版も多用されていて親しみやすい。中高年登山者にもご一読をお薦めしたい。

著者はレスキュー技術の研究・普及に熱心な方で、日本山岳協会遭難対策常任委員、日本山岳レスキュー協議会幹事、東京都山岳連盟・(前) 遭難対策委員長。

「登山技術全書 11」 山と溪谷社 2007 年刊



[「山書の小溪」目次に戻る](#)